

ATELIER MUJI

GINZA

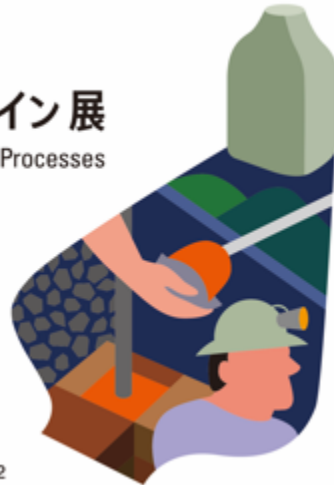
お知らせ

2022年6月吉日

「リサーチ！ プロセスを魅せるデザイン」展

2022年7月1日（金）－8月28日（日）ATELIER MUJI GINZA Gallery1・2

リサーチ！ プロセスを魅せるデザイン展 Research! Design with Fascinating Processes



ATELIER MUJI GINZA Gallery 1・Gallery 2

©ATELIER MUJI GINZA

ATELIER MUJI GINZA (東京都中央区/無印良品 銀座店内) は、2022年7月1日（金）から8月28日（日）まで、ATELIER MUJI GINZA Gallery1・2にて「リサーチ！ プロセスを魅せるデザイン」展を開催いたします。

生活を取り巻くあまたのものたち。

その物が並び売られるテーブルを覗きながら私たちは、好きなもの、美しいもの、便利なものなど、使い手の視点からものを選び生活に採り入れています。

でももし、一つ一つのものが、その背景にあるリサーチとプロセスを語りはじめたら？ 私たちは何に気づき、生活はどのように変わるのでしょうか？

オランダ、アイントホーフェンにある「デザイン・アカデミー・アイントホーフェン」（DAE）は、従来の「デザイン」の概念を覆す現代的コンセプトと思考方法を育むユニークなプログラムで知られるデザイン教育機関です。これまでのモノづくりの流れに大きな変化をもたらすクリエイターたちを世に送り出し注目を集めています。では、その新しい「デザイン」とはいったいどのようなものなのでしょうか？

本展では、リサーチをかたちにする先駆的な作家として知られる、クリスティン・メンデルツマをはじめ、今、国際的な注目を集める若手、シモン・バジェン・ボテロ、簗島さとみ+ポリン・アグストーニ、DAE出身の3組の作品を通して、新たなデザインの地平線を視覚化します。

彼らに共通するのは、現代にさらにもものを生み出すことへの根本的な問い、徹底したリサーチ、そしてプロセスそのものまでも作品とする手法です。

3組それぞれのリサーチとプロセスで魅せる作品は、私たちの好奇心を「もの」の背景にある物事へと向かわせ、これまでシンプルな「使い手」として見てきた日常的なものの風景や感性、美の意識までを一変させる力を持っているのではないのでしょうか。

ATELIER MUJI GINZA

▼出品作家

クリスティン・メンデルツマ (1980、オランダ)

ローカルな資源と生産へのこだわり、また工業化によって遠ざかったプロセスを徹底したリサーチと記録で明らかにする作品を発表し、デザイン界に衝撃を与えたメンデルツマ。本展では、彼女の名を知らしめた2冊の本と椅子のプロジェクトを紹介する。ロッテルダム (オランダ) を拠点に活動。

簗島さとみ (1989、日本) + ポリン・アグストーニ (1996、スイス)

2人はDAE在学中に出会い、その後共同で、奄美大島の伝統工芸である泥染めの現地リサーチと体験を経てかたちにしたインスタレーションが 'Craft Portrait: Dorozome' である。簗島はアイントホーフエン (オランダ)、アグストーニはベルリン (ドイツ) を拠点に活動。現在 'Craft Portrait' 2作目を製作中。

シモン・バジェン・ボテロ (1992、コロンビア)

デザインを議論やエンパワーメントのツールとして使い、プロジェクトごとに異なる職人、技術者、コミュニティと協働するバジェンが、コロンビアの金鉱の廃材を再利用しガラスのオブジェを生み出した持続可能なプロジェクトが 'Suelo Orfebre'。アムステルダム (オランダ) とメデリン (コロンビア) を拠点に活動。

▼空間構成

吉行良平

DAEを卒業後オランダでのデザイン事務所を経て、大阪に「吉行良平と仕事」を設立。日用品の設計を中心に、手を動かし実験、検証を重ね、あるべき色、形を探る。※DAE卒業の出展者と共にトークイベントにも参加予定。

デザイン・アカデミー・アイントホーフエン (DAE)

オランダ、アイントホーフエンで70年以上にわたりデザイン教育の先端を担う教育機関。素材、社会、環境、そして批評のイノベーションの道具としてのデザインを探求。意欲的なデザイナーを多数輩出し世界的に注目されている。

【関連イベント】

会期中は出展作家らのトークセッションをはじめ、彼らの出身校であるDAE (オランダ) の驚きの講義について解き明かす関係者のトークセッション (オンラインを予定。逐次通訳あり)、ワークショップも開催予定です。詳細については随時、ATELIER MUJI GINZA 公式サイトやSNSでお知らせします。

【基本情報】

「リサーチ！ プロセスを魅せるデザイン」展

会期 | 2022年7月1日 (金) - 8月28日 (日) ※休館は店舗に準じます。

時間 | 11:00-21:00

会場 | 無印良品 銀座 6F ATELIER MUJI GINZA Gallery1・2 入場無料

主催 | 株式会社良品計画

協力 | オランダ王国大使館、デザイン・アカデミー・アイントホーフエン、KANAIKOUGEI

後援 | コロンビア共和国大使館

イラストレーション | 簗島さとみ

グラフィックデザイン | 株式会社 SARAVAH design

空間構成 | 吉行良平

施工 | HIGURE 17-15 cas

キュレーション | 田代かおる

※会期や時間などの予定変更、またはイベント等によって展示品の一部がご覧頂けない日時が発生する場合がございます。

ATELIER MUJI GINZA

〒104-0061 東京都中央区銀座 3-3-5 無印良品 銀座6F

アクセス | 東京メトロ銀座線・丸ノ内線・日比谷線「銀座」駅 B4 出口 徒歩3分

東京メトロ有楽町線「銀座一丁目」駅5番出口 徒歩3分

JR 山手線「有楽町」駅 中央口 徒歩5分

ATELIER MUJI GINZA 公式サイト | <https://atelier.muji.com/jp/>

Instagram | @ateliermuji_ginza

Twitter | @ateliermuji

【リリース写真資料】

本リリースに掲載した下記写真を広報掲載用にご用意しております。掲載をご希望の際は下記広報担当までご連絡ください。ご掲載の際は、作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いいたします。

1. PIG 05049 (2007)、クリスティン・メンデルツマ
Credit: Julie Joliat (graphic designer)
2. PIG 05049 (2007)、クリスティン・メンデルツマ
Credit: Julie Joliat (graphic designer)
3. Checked Baggage (2004)、クリスティン・メンデルツマ
Credit: with special thanks to Remco van de Craats
4. Checked Baggage (2004)、クリスティン・メンデルツマ
Credit: with special thanks to Remco van de Craats
5. Craft Portrait: Dorozome (2020)、養島さとみ+ボリン・アグストーニ、インスタレーションのディテール
Photo: Yuta Sawamura
6. 85以上の染めを重ねる泥染めの、グラデーションが美しい反物
Photo: Pauline Agustoni
7. 泥染めの原料の一つ、車輪梅のチップを煮る
Photo: Pauline Agustoni
8. 染めた反物を洗う養島さとみ
Photo: Pauline Agustoni
9. コロンビア、マルマト金鉱の入口。この金鉱から出る廃棄物を利用した作品が「スエロ・オルフェブレ」。
Photo: Simón Ballen Botero
10. 「スエロ・オルフェブレ」試作の数々
Photo: Femke Rijerman
11. レンガを組んだ型に職人がガラスを吹く
Photo: Elizabeth Arce
12. 鉱山のコミュニティとシモン・バジェン（前列右端）
Photo: Elizabeth Arce



1.



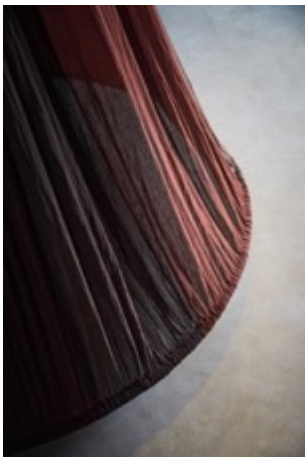
2.



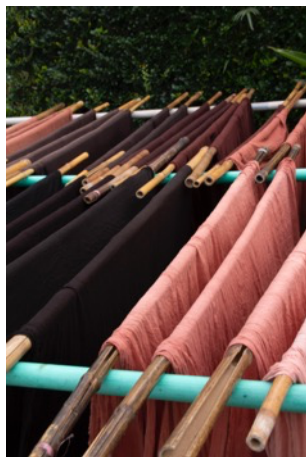
3.



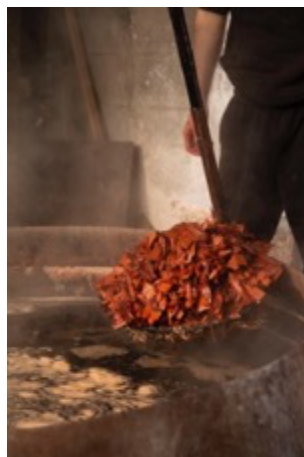
4.



5.



6.



7.



8.



9.



10.



11.



12.

本展へのご取材・ご掲載に関するお問い合わせ
（株）良品計画 無印良品 銀座 ATELIER MUJI GINZA 広報担当：島田・遠藤
〒104-0061 東京都中央区銀座3-3-5 無印良品 銀座 6F MAIL: atelierpr@muji.co.jp